

# HIV/エイズから子どもたちを守る

HIV/エイズが世界の脅威と言われ始めてから20年。エイズは主におとなの病気であり、問題だと考えられてきましたが、子どもに与える影響は計りしれないほど大きいものです。

それにもかかわらず、子どもがHIV/エイズの影響を受けていることは十分に認識されておらず、対策からも取り残されてしまっています。

## HIV/エイズという病気

「HIV」はヒト免疫不全ウイルスというウイルスの名前です。「エイズ」とは、後天性免疫不全症候群の略称で、自分の体を病気などから守る免疫力をなくしてしまう病気です。何の治療もしなければ、HIVに感染してから5～10年でエイズを発症(発病)すると言われていきます。エイズを発症すると、免疫力がほとんどなくなっているため、健康な人では問題にならない種類のウイルス、細菌などによる日和見(ひよりみ)感染症(\*)や悪性腫瘍、神経障害などさまざまな症状をひきおこします。

HIVは、血液や体液を通じて感染するので、誰でもかかる可能性があります。しかし、話をしたり、食事をしたり、握手をしたりするなど、普通の生活で感染することはありません。

(\*) 通常の免疫力では体内で増殖しないような弱い病原体が、体の免疫力が低下した際に増殖し生じる感染症

## 子どもたちのためのキャンペーン

現在、15歳未満の子どもが毎分1人、エイズに関連した病気で亡くなっています。また、1,500万人の子どもたちがエイズ関連の病気で親(一方または両方)を失っています。

ユニセフは、こうした子どもたちに対する国際社会の関心を喚起し、必要な支援を子どもたちに届けるために、「Unite for Children, Unite Against AIDS」(子どもたちのために、エイズと闘おう)を合言葉に、2005年10月、「子どもとエイズ」世界キャンペーンをスタートさせました。このキャンペーンにはユニセフ親善大使のデヴィッド・ベッカム(サッカー選手)、サー・ロジャー・ムーア(俳優)ほか、多くの著名人が参加しています。



キャンペーンの開会式で挨拶するアン・ベネマン ユニセフ事務局長

©UNICEF/HQ05-1516/  
Susan Markisz

## ユニセフの目標と活動 —母子感染の予防について—

ユニセフは2010年までの5年間に、4つの目標【2ページ表1参照】に焦点をあてて行動を起こしていきます。例えば、目標のひとつである「母子感染の予防」についての状況と活動の概要は次の通りです。

## ユニセフの4つの目標

- ① **母子感染の予防**  
2010年までにHIVの母子感染を防止するためのサービスを、必要とする女性の80%に提供する
- ② **子どもへの治療**  
2010年までに、抗ウイルス薬による治療もしくはコトリモクサゾール(\*)による治療を、必要とする子どもの80%に提供する
- ③ **孤児や困難な生活を強いられている子どもたちの保護**  
2010年までに、最も困難な状況に置かれている子どもたちの80%に支援を提供する
- ④ **若者の間での感染防止**  
2010年までにHIV/エイズとともに生きる若者の割合を25%減らす

(\*)肺炎などの病気の治療に使われる薬

## ● 母子感染の現状と予防対策

2005年の1年間で54万人の子ども(15歳未満)がHIVに感染したと推計されています。その大半が未治療のままの妊娠で、出産の際または母乳育児を通じての「母子感染」が原因です。

HIVに感染した子どもは、適切な治療を受けられない場合、半数が2歳になる前に命を落としてしまいます。また、生き延びることができたとしても、感染後の人生は非常にきびしいものとなってしまいます。

HIVに感染したお母さんから子どもへの感染率は35%と言われていますが、妊娠中の女性がHIV検査を受け、しっかりとその後の対策をとっていけば、子どもへの感染の割合を下げることができます。先進諸国では対策によって感染率を1~2%まで低下させていますが、開発途上国ではこの対策が徹底されていないので、HIVに感染する子どもが増えています。母子感染を防ぐことができれば、15歳未満の子どもの死の大半を防ぐことができるのです。

世界全体で、母子感染の予防に必要なサービスを受けている妊産婦は10%にも達していませんが、今後キャンペーンでは80%を目指して活動を進めていきます。



HIVに感染しているお母さんと生まれて間もない赤ちゃん。赤ちゃんへの感染を防ぐには、出産中のお母さんへの投薬、出産後の健康診断、生後間もない赤ちゃんへの投薬、18ヵ月後にHIV検査を受けさせるなどのケアが必要

©UNICEF/HQ04-1218/Ami Vitale

## エイズと闘うための課題

HIV/エイズ対策に重要なのは「感染を防ぐこと」。そして、感染予防には、正しい知識が一番の「ワクチン」だと言われています。

ユニセフは政府やNGOなどと協力して、感染予防のための知識の普及、HIV/エイズの専門家の養成や医療スタッフの訓練、子どものHIV検査受診を容易にするための法律改正の呼びかけなど、さまざまな活動に取り組んでいます。

死の病と恐れられてきたHIV/エイズですが、新しい薬の開発によって、薬を飲み、しっかりとした治療を受ければ多くの患者が命を落とさず、普通の生活を送ることができるようになりました。しかし、開発途上国では、薬を必要としているにもかかわらず、貧しい人びとや子どもには薬が行き渡っていないことが大きな課題となっています。

また、HIV/エイズについての正しい理解がないために、患者やその家族に対する偏見や差別が著しく、子どもたちがきびしい状況に置かれてしまうという深刻な問題もあります。【基礎講座参照】こうした子どもたちへの支援も広げていかななくてはなりません。

HIV/エイズから子どもたちを守るために、予防と治療を充実させ、私たちがHIV/エイズに対する正しい理解を持ち、この病気から生じるさまざまな問題について率直に話し合い、行動していくことが必要です。



HIVの検査を受ける妊婦さん(アグネス大使のレソト視察より)  
©日本ユニセフ協会/新藤健一

### 「子どもとエイズ」世界キャンペーンについての詳細は各資料をご覧ください。

- ユニセフ・ニュース 208号、209号、210号  
\*210号には、アグネス大使のレソト報告、エイズ・シンポジウム報告が掲載されています。(余部には限りがあります)

- 日本ユニセフ協会ホームページ  
<http://www.unicef.or.jp/campaign/051025/index.html>  
\*今キャンペーンに関するさまざまな情報にアクセスできます。